審査員特別賞

地球を守るためにリサイクルの大切さ

四年　加藤　日菜花

一学期に私のお気に入りのズボンに穴が空きました。もう捨てるしかないのかなと思っていたら、お父さんが「これくらいなら直せば大丈夫だよ」と言って直してくれました。もう捨てるしかないと思っていたのに、またはけることがうれしくて、ゴミって何だろうと思いました。そういえばちょうど学校でゴミ削減の取り組み5Rを学んだことを思いだしました。3Rは知っていたけれど、不要なものを受け取らないリフューズ、こわれたものを直して使うリペアまでは知りませんでした。ものを大切にしない人が多いのかと思いリサイクル工場に行ってみることにしました。

工場見学で聞いた「分ければ資源、混ぜればゴミ」という言葉が印象的でした。

工場では、ゴミを分別するためじしゃくの力を使って、スチール缶とアルミ缶を分けて

いました。また、風の力を使ってペットボトルとびんを分けていました。

さらに、異物がないか人による確認が必要になることがわかりました。流れてくるものの中からすばやく分けていくのは、すごいと思いました。最後は、やはり人間の力が必要だと思いました。働いている人ががんばっているのに、スプレー缶や包丁など危ないものまで混ざっていることを知り、悲しい気持ちになりました。

工場の中にいるとだんだんにおいがきつく感じるようになりました。においのもとは、ペットボトルの飲みのこしが原因であることを教えてもらいました。まさか、飲み残しがにおいの原因になっているとは、全く想像もしていませんでした。

私は暑いのが苦手で夏があまり好きではありません。夏が暑くていやだとお母さんに話すと、「昔はこんなには暑くはなかった」と言っていました。それに、家族でキャンプに

行く計画がありましたが、クマがでるかもしれないから、行かなくなりました。北極グマは地球が暖かくなったことにより、減っていると本を読んで知りました。地球が暖かくなっていろいろなことにえいきょうがあることと、私たちのリサイクルは、本当は関係があるのだと思います。

私たちが捨てたものは消えてしまうわけではなく、ゴミは燃やすと二酸化炭素がでてしまうし、ゴミは最後に土にうめないといけないので、そのための土地が必要です。資源は使って捨ててしまえばなくなるけれど、リサイクルすればまた使えます。

私ができることを考えると、ゴミを捨てる時には、分別に気を付けようと思いました。ペットボトルのラベルやキャップを別にすることや、最後まで飲み切って捨てるように心がけたいです。そしていつか私が大人になったら、きっと子どもに「直せば大丈夫だよ」と言うだろうなと思います。